

県指定無形民俗文化財 一幡神社の御榊神事

1 日程

平成31年2月8日（金）午後1時～午後4時頃

御神酒づくり・・・本名宅（菅ヶ谷3348）で神事用の御神酒をつくる。

平成31年2月9日（土）午前7時～午後9時頃

御本飯・御神饌づくり・・・本名宅で御神体の餅や神饌をつくる。

平成31年2月10日（日）午前8時30分～午後10時頃

古例祭・式典ほか・・・本名宅から行列が出発し、一幡神社で式典を行う。

※ 行列の出発は、午前11時30分頃。式典は、午後1時頃からの予定。

2 場所

本名宅（菅ヶ谷3348）、一幡神社（牧之原市菅ヶ谷3786）

3 内容

菅ヶ谷地区の一幡神社で、毎年2月上旬の3日間に渡って行われる特殊神事。「二十八名（みょう）」と呼ばれる28軒の家のうち、1軒が「本名（ほんみょう）」となり、祭りを取り仕切る。

本名は、御神体である「御榊様（おさかきさま）」を一年間お祀りする。前年の本名から「御本飯（ごほんばん）」という餅を受け取った本名は、それを小さく賽の目に切って榊の葉の上に並べ、竹の簀の子に包んで榊の枝に吊るした御榊様を作る。そして、神社境内（昔は本名の自宅）にある栗の木と藁で作った小屋に安置し、祭りまでの1年間慎んだ生活を送る。こうすることで御神体に宿る霊力が増幅され、豊作をもたらすと考えられている。

祭りの1日目、本名宅では御神酒作り、2日目に御本飯や牛の舌餅など神饌の準備を行う。3日目には、神饌や諸道具、御榊様を持った行列が神社へと向かい、御榊様を開いて氏子や参拝者に中身を配る。本名の役目はこれで終わり、神饌や諸道具は来年の本名が引き継ぎ、新しい御榊様を作る。

4 見どころ

（1）日本の信仰の古いかたち

米（稲）に宿る霊力を特別視し、神様として祀る日本文化の古いかたち。

（2）多種多様な神饌

御本飯、牛の舌餅、御五菜（大根に突き刺した栗ほか）など様々な神饌

→ 牛の舌餅を作る際は、餅を投げ合うなどユニークな方法で作る。